

戦後日本の平和主義が危ない！着実に進む戦争への道を許すな！ 専守防衛の見直し提言、敵基地攻撃能力保持、集団的自衛権行使！ 首相諮問機関「安全保障と防衛力に関する懇談会」が報告書提出

平和・人権・民主主義を守るために、政権交代を実現しよう！

8月4日、首相の諮問機関「安全保障と防衛力に関する懇談会」は、報告書を麻生太郎首相に提出しました。この提言は、年末に予定されている「防衛計画の大綱」の見直しに反映するために行われたもので、今後の日本の「防衛政策」の根幹をなしていくものと言えます。

新聞などで報道されている内容をみると、戦後日本が推し進めてきた平和主義・軍事大国化の否定を見直し、敵基地攻撃能力保持や集団的自衛権の行使、武器輸出三原則の緩和などを求めているとされています。私たちは、このような「戦争のへ道」を何としても食い止めるために奮闘しなければなりません。そのために、来る衆議院選挙に勝利し、政権交代を実現しましょう！

安保懇報告書

集団的自衛権の行使容認

専守防衛見直し提言

政府の「安全保障と防衛力に関する懇談会」が、8月4日、麻生太郎首相に提出した報告書。この提言は、年末に予定されている「防衛計画の大綱」の見直しに反映するために行われたもので、今後の日本の「防衛政策」の根幹をなしていくものと言えます。

安保懇報告書

国是「転換」さらに

歯止め崩れる防衛政策

政府の「安全保障と防衛力に関する懇談会」が、8月4日、麻生太郎首相に提出した報告書。この提言は、年末に予定されている「防衛計画の大綱」の見直しに反映するために行われたもので、今後の日本の「防衛政策」の根幹をなしていくものと言えます。

防衛の基本方針をめぐる変化

戦中	戦後
専守防衛	集団的自衛権行使不可
武力行使は日本防衛のみ	防衛力整備は自衛隊の必要最小限
「今日の視点で検証を」(09年の安保防衛懇談会)	「多機能弾力的防衛力に移行」(14年の防衛大綱)

5 社説・発言 *11版S 2009年(平成21年)8月5日(水曜日)

安保懇報告書

首相の諮問機関である「安全保障と防衛力に関する懇談会」がまとめた報告書は、多くの問題をほうらんでいる。平和憲法の下、戦後歩んできた日本の国防政策の根幹を揺るがしかねない内容だ。

安保懇報告書

安保防衛懇が麻生太郎首相に提出した報告書は、年末に予定される「防衛計画の大綱」改定に反映される。この報告書は、集団的自衛権の行使を容認し、敵基地攻撃能力の保持を求め、武器輸出三原則の緩和を求めている。これは、戦後日本が推し進めてきた平和主義を大きく揺るがすものである。

専守防衛も外せとは

国際テロや大量破壊兵器の拡散など、国境をまたぐ安全保障上の脅威の増加を指摘。日本周辺では、核・ミサイル開発を継続する北朝鮮や、軍事力の増強を図る中国など、その存在に恐れ、自衛隊活用の積極論を展開している。

安全確保をめぐる国際環境は確かならぬ。それを口実に、米艦船の防護を可能にすべきだとの提言も、現実問題として実行可能かどうか分らない活動に「ゴースト」を出すことで、解釈変更の風穴をあける意図が見え隠れする。

外国への武器輸出を禁じた三原則緩和や、敵基地攻撃能力の検討なども盛り込まれた。

極め付きは、専守防衛の基本政策の見直しである。「専守防衛の持つ諸感」は、自由な思考・発想を止める要因になつており、必要に応じて解釈されることは好ましくない。意味を明確化させることが有意味だ。まわりの「看板」を外すべきだと読み取る。メンバーには、安倍政権時に発足した集団的自衛権行使容認を打ち出した有識者会議に参加したタカ派論者が複数いる。

初めに結論ありきの印象が否めない。海外に頼ったメッセージを送る恐れもあり、提言のタイミングや外交センスを疑わざるを得ない。ハト派を自任する自民党議員や公明党の受け止めを聞きたい。

政権交代が取りざたされる衆院選へ各党が事実上選挙戦に突入した中で、駆け込み的に安保政策の大転換が促される。これほど危険なことはいない。